

# 令和元年度 旭区運営方針自己評価 (概要版)

大阪市旭区役所

「旭区運営方針」とは、旭区の将来像や施策展開の方向性等をとりまとめた「旭区将来ビジョン2022」の単年度ごとのアクションプランになります

「令和元年度 旭区運営方針」の全体については、旭区役所ホームページをご覧ください。  
(<https://www.city.osaka.lg.jp/asahi/page/0000466780.html>)

## 旭区がめざすこと

「安心して住み続けられるあたたかいまち 旭区」  
の実現をめざす。

## 旭区の役割

「安心して子育てできるまち」

「やさしさあふれるまち」

「活力あるまち」

「安全に暮らせるまち」

の実現に向けて、「ニア・イズ・ベター」に基づく  
施策・事業を展開するとともに、ムダを徹底的に  
排除した効率的・効果的な行政運営に取り組む。

# ◆ 令和元年度の自己評価結果の総括

## 1年間の取組成果と今後取り組みたいこと

「旭区将来ビジョン2022」に示す「安心して子育てできるまち」「やさしさあふれるまち」「活力あるまち」「安全に暮らせるまち」の実現に向けて取組を進めました。

令和元年度は、特に防災・安全対策の強化に向けて、「旭区地域防災計画」の改定を始め、区役所の防災体制の見直し、小学生の実践型防災プログラムの実現などに取り組んだ。また、子育ての分野では、全市的な取組である「大阪市版ネウボラ」と当区独自の取組である「あさひキッズネット」事業の連携を図り、地域ぐるみで子育てを見守り・支える仕組みの構築に向けて、関係者の意識共有・ネットワーク強化を図りました。

今後は、「重大虐待ゼロ」を目指す取組として、令和2年度に新たに開始する「あさひ子育て見守り事業」と「こどもサポートネット事業」との有機的連携により、妊娠期から中学生までのこどもに目が届く体制を整えていく。一方で、新型コロナウイルスの関係で事業の縮小・中止を余儀なくされた影響もあり、年度当初に定めた目標を達成できなかった取組が思いのほか多く、次年度に課題を積み残した状況にあります。

令和2年度については、「(WITHコロナの)新しい生活様式」を念頭に、具体的取組の事業手法やプロセス指標を見直し、将来ビジョンが目標とする「安心して住み続けられるあたたかいまち旭区」の実現に向けて、着実に施策を進めていきたいと考えています。

## 解決すべき課題と今後の改善方向

新型コロナウイルスの影響で、まつりや運動会などの地域イベントの中止のみならず、食事サービスや「ふれあい喫茶」などのコミュニティ活動も中断しており、地域福祉や防災・防犯の基盤となる地域力の大幅な低下が懸念されます。

地域力の回復が喫緊の課題であり、これまで以上に区民（地域）に寄り添った区政運営に努め、地域コミュニティの活性化に資する取組を最優先で進めていきたいと考えています。

3

## 重点的に取り組む主な経営課題

### 経営課題1 子育て・教育環境の充実

#### めざすべき将来像

すべての子育て家庭が安心と喜びを実感しながら、子どもを生み、育てられるようなあたたかいまちをめざして、子育て支援を充実させる。家庭の経済状況に関わらず、全ての子どもが健やかに成長し、自らの可能性を最大限発揮できる教育環境の実現を学校や地域と連携しめざす。

#### 戦略1-1 子育て支援の充実

- ・子育ての不安感・負担感を軽減するため、必要な支援・相談体制をつくり、参加や交流を促す。
- ・子育て支援機関での「あさひ子育て安心ネットワーク（あさひキッズネット）」を充実させ、地域全体で子育てを支える仕組みづくりを強化する。
- ・要保護児童対策として、要保護児童対策地域協議会を開催し、関係機関における情報共有と支援体制を整備・充実させる。

#### 戦略1-2 子どもへの教育支援

- ・小学生及び中学生を対象として、基礎学力向上のための事業を実施する。
- ・学習習慣や生活習慣が十分身につけていない子ども達に対して、学習支援や生活指導等を行う事業を実施する。

5

項目	内容	有効性	項目	内容	有効性
戦略1-1	子育て支援の充実	ア	戦略1-2	子どもへの教育支援	ア
具体的取組	1 乳幼児とその保護者の健康を保つ支援	ア	具体的取組	1 中学生の基礎学力定着支援	ア
	2 支援が必要な子ども・家庭へのサポート	ア		2 小学生の学力向上支援	ア
	3 制度の周知・相談機能の充実	ア		3 小学生の体力・運動能力向上支援	ア
		4 子どもがたくましく生きる力を付ける取組		ア	
		5 子どもの自立心を育むための支援		ア	
		6 こども食堂における学習等支援		ア	

ア：有効であり、継続して推進  
 イ：有効でないため、取組を見直す  
 ー：プロセス指標未設定(未測定)

6

具体的取組 1 乳幼児とその保護者の健康を保つ支援

指 標

臨床心理士による相談件数

目標値 600件以上



達成状況 1,316件

取組実績

- 臨床心理士による相談の実施 1,316件  
 (実施場所) 常設：1,063件  
 乳幼児健診等：253件  
 1歳6か月・3歳児健診  
 発達相談事業（フォロー健診）  
 4・5歳児発達障がい相談事業  
 育児教室（3か月児健診後のフォロー教室）事業
- プレパママサロンの開催  
 開催回数 7回（うち4回は土曜日）  
 参加者数 のべ116人（うち土曜日は99人）  
 1回あたりの平均16.6人（土曜日に限っては24.8人）



プレパママサロン開催の様子

令和2年度の主な取組

- 大阪市版ネウボラの展開
- 発達障がい等の早期発見及び早期支援にかかる事業の強化
- プレパママサロンの開催

具体的取組 2 支援が必要な子ども・家庭へのサポート

指 標

モデル地区における  
キッズカードの所持率

目標値 50%以上



達成状況

3か月児健診：85.8% 1歳6か月児健診：72.7%  
 3歳児健診：38.2% 乳幼児健診全体：67.3%

取組実績

- ノーバディーズ・パーフェクト・プログラム：1回
- あさひキッズネット会議：3回
- 要保護児童対策地域協議会 実務者会議：12回
- 発達障がいサポーター配置：小学校10校、中学校1校



あさひキッズカード

課題や改善策

【課題】

3歳児健診でのキッズカードの所持率が低い。

【改善策】

キッズカード所持率の向上のため、幼稚園、保育所等のキッズサポートステーションや協力協賛店舗を増やす。



令和2年度の主な取組

- あさひ子育て見守り事業を実施
- 要保護児童対策地域協議会実務者会議を月例開催
- 「あさひ子育て安心ネットワーク（あさひキッズネット）会議」を継続開催
- ノーバディーズ・パーフェクト・プログラム等を継続開催
- 子育て相談メールで保護者の悩みを随時受付